

# 彩の歳時記

平成二十七年

四月

そして今  
 そして今、ここに生きる  
 ふる里越は北国・・・。  
 北国の弥生は四月、そして今  
 四月になって、梅桜桃李  
 あとさきのけじめもなしに  
 時を得て、咲きかおり・・・。  
 中略  
 そして今、ここに生きる  
 ふる里の越の四月・・・。

アポリネールの「ミラボー橋」の訳詩や「月下の一群」  
 などで知られる仏文学者・詩人で近代詩に多大な貢献を  
 した堀口大豊【1892～1981】が少年期と疎開時を過ご  
 した北陸の自然の美しさを詠った詩「そして今」。  
 「北国の弥生・四月」に向けて、北陸新幹線(高崎～金沢)  
 が三月十四日に開通、金沢三文豪「泉鏡花・室生犀星・  
 徳田秋声」を輩出した、梅桜桃李(ばいおうとうり)が一斉  
 に開く美しい「北越」は、今春の人気スポット。  
 この地を愛した大豊が1971年、福島原発が稼働した年  
 に詠った詩が、今、心に響きます。



分ち合え譲り合えそして武器を捨てよ人間よ  
 君は原子炉に太陽を飼い慣らした 君はいま立ってる存亡の分かれ目に 後略

## 四月の暦

卯の花の咲く「卯月・うづき」

一日 エイプリルフル・万愚節・仏では「フワソン・ダヴリル」(Poisson d'avril, 四月の魚)。

新会計年度 1月1日から翌年の3月31日を「年度」として括る。江戸時代までは、1月から12月までだったが、明治維新後、政府の財政難から「年度」が作られた。当初は始期が頻繁に変えられたが、1886(明治19)年に現在の形に。

五日 清明【二十四節気】 春先の清らかで生き生きとした様子「清浄明潔」の略。

## 八日

灌仏会【花祭り・花供養】

仏教の開祖・釈迦の誕生日とされる日、釈迦の立像に甘茶を

そそぐのは釈迦の誕生時、八大竜王が喜びのあまり甘露の雨を降らせた事に由来。

## 八日

虚子忌

俳人・高浜虚子【1874～1959】の忌日。河東碧梧桐と共に正岡子規に兄事し、

子規より虚子の号を受ける。柳原極堂が松山で創刊した『ほととぎす』に参加、これを引き継ぎ上京、主宰に。定形と季語の尊重、「花鳥諷詠」を提唱、多くの優れた俳人を育成した。虚子が十五歳の時に正岡子規の家で、後に作家の道へ誘う夏目漱石と出会っている。来年の漱石没後百年、虚子や子規を輩出し、小説「坊ちゃん」の舞台にもなった四国松山には虚子の胸像があり、側面には「こころに又住まばやと思ふ春の暮」の句。



## 十三日

啄木忌

漂白の詩人・石川啄木【1886～1912】の忌日。岩手県盛岡生まれ。故郷の渋民村から新

天地、函館・札幌・小樽・釧路で主に新聞記者として働き、後、上京したが活躍の機会を得られず、明治が終わる年のこの日、生涯を閉じた。弱冠十七歳で天才と評されながら苦難の人生を送った。作品は今も人気が高く、歌の舞台となった地を訪ねる人も多い。井上ひさしの評伝戯曲



「泣き虫なまいき石川啄木」は的確に啄木像を描いて秀逸。  
 二十日 穀雨【二十四節気】春雨が百穀を潤すが、特に多い時期ではない。  
 二十二日 世界アースデー 地球のことを考えて行動する日。  
 二十九日 昭和の日 昭和天皇の誕生日で2006年まではみどりの日。  
 春の黄金週間の始まりの日。

## 四月の歌

さくら 詞・曲 森山直太郎・御徒町風 2003年

花見の名所である上野駅「東京メトロ銀座線」の発車メロディ。森山のファルセット(裏声)が魅力的な楽曲。現在、卒業式などで多くに歌われている。



ぼくらはきつと待ってる  
 君とまた会える日々を  
 桜並木のみちの上で  
 手を振り叫ぶよ  
 どんなに苦しい時も  
 君は笑っているから  
 くじけそうになりかけても  
 頑張れる気がしたよ  
 かすみゆく景色の中に  
 あの日の歌が聞こえる  
 さくらさくら 今咲きはこる  
 刹那に散るゆくさだめと知って  
 さらば友よ 株立ちのとき  
 変わらないその想いを今  
 後略